

## 男性性感染症患者の性行動様式についてのアンケート調査

三樹会病院 (院長 : 丹田 均)

小六 幹夫, 丹田 均, 加藤 修爾, 大西 茂樹  
中嶋 久雄, 南部 明民, 新田 俊一, 赤樫 圭吾  
佐藤 嘉一, 半澤 辰夫

### QUESTIONNAIRE SURVEY ON SEXUAL BEHAVIOR OF JAPANESE MALES INFECTED WITH SEXUALLY TRANSMITTED DISEASES

Mikio KOROKU, Hitoshi TANDA, Shuji KATOH, Shigeki ONISHI,  
Hisao NAKAJIMA, Akihito NANBU, Toshikazu NITTA, Keigo AKAGASHI  
Yoshikazu SATOH and Tatsuo HANZAWA  
*From Sanjukai Hospital*

In Japan, there has been a rapid increase in recent years in the incidence of sexually transmitted diseases (STD), particularly in teenagers and people in their twenties. To determine the factors causing this increase in STD, we carried out a questionnaire survey on the sexual behavior of Japanese males. The subjects were 248 male patients who were treated at our outpatient clinic. The results of the survey showed that 1) about 70% of the male patients were infected through sexual intercourse with partners who were not paid for such services; 2) the average number of partners in the past year was 5.8, and the average number of partners was highest for the teenage group and decreased with age; 3) only 29 (12.4%) of the 234 males used condoms; and 4) 192 (82.0%) of the 234 males received oral sex. The results of the survey suggest that a large "sexual network" has been formed among young Japanese people and that a large percentage of young Japanese people are engaged in unprotected sex.

(Acta Urol. Jpn. 48 : 333-336, 2002)

**Key words:** STD, Sexual behavior

#### 緒 言

厚生省性感染症研究班の報告では1995年以降, 性感染症 (以下 STD) のうち特に性器クラミジア感染症と淋菌感染症が急増している<sup>1)</sup> なかでも10代, 20代の若年層の感染者が急増しているが, その背景となる若者の性行動に関する調査は木原ら<sup>2)</sup>の報告以外には数が限られている. 今回われわれは男子 STD 患者の性行動様式の一端を明らかにするため, 当院外来を受診した患者を対象にアンケート調査を行ったので報告する.

#### 対象と方法

2001年1月から9月までの期間に, 排尿時痛や尿道からの排膿などの性感染症様症状を主訴に当院外来を受診した248名の男性を対象とした. Fig. 1のごときアンケート用紙を診療終了時に渡し, 無記名で回収した. アンケート記入を拒否した症例は7例であった. 大多数が尿道炎であったが, 尖圭コンジローマやヘルペス, 毛ジラミなどの性感染症も含まれている. 疾患別の症例数については, アンケートを無記名で行った

ため調査不能であった. なお質問項目すべてに回答されなかった症例もあるため, 各検討項目の症例数が若干異なっている.

#### 結 果

##### 1. 年齢分布

年齢については241例から回答が得られた. 10代は19例 (7.9%), 20代は152例 (63.1%), 30代は49例 (20.3%), 40代は15例 (6.2%), 50歳以上は6例 (2.5%)であった. 20代, 30代で83%を占めており, 既婚者は70例 (70/219 : 32.0%)であった. 今回の検討では10代の症例が19例と, やや少ない結果であった.

##### 2. 感染源

感染源については229例から回答が得られた. そのうち42例は複数の感染源を有していた (例えば特殊浴場嬢いわゆるソープ嬢と友人など). 複数の感染源を有する症例については, いずれの感染源からの感染であるかを特定できないため各感染源を例数に加えた. Fig. 2に年齢群別の感染源を示した. 金銭の授受を伴う性交については30代での頻度が高く, Oral sexを

性感染症に関するアンケート調査に御協力ください。

この調査は無記名で、個人の回答が公表されることは絶対にありません。

このアンケートに御協力いただけますか。 はい いいえ

1. あなたの年齢は：( ) 歳, 差し支えなければ職業を御記入願います：( )

2. あなたは結婚(同棲)していますか。：はい いいえ

A. 症状などについておうかがいいたします。

1. 感染したと考えられる時期はいつ頃ですか。( 月 日頃)

2. 現在の症状はいつ頃から出現しましたか。：( 月 日頃)

3. 今回症状が出現するまでに何人の相手と性交渉がありましたか。：( 人)

4. 性交渉のあった相手はだれですか。○印をつけて下さい。

配偶者, 恋人, 友人, たまたま知り合った人(飲み屋, テレクラなどで), ソープランド, ヘルス, ホステス, 援助交際, その他( ), わからない

B. セックスについておうかがいいたします。

1. 今回の相手とはセックスをおこないましたか。：はい いいえ

2. その際コンドームは使用しましたか。：はい いいえ

3. コンドームを装着した時期はいつですか。：最初から装着した, 挿入時に装着した, 射精時に装着した

4. 今回の相手とはフェラチオをおこないましたか。：はい いいえ

5. その際コンドームは使用しましたか。：はい いいえ

6. フェラチオでも性病に感染する可能性があることを知っていますか。：はい いいえ

7. 過去1年間に, セックスをした相手の数は全部で何人ですか：( ) 人

C. 性病についておうかがいいたします。

1. 今までに何度性感染症(性病)と診断されたことがありますか：( ) 回

2. その時, 病名は何と言われましたか。○印をつけて下さい。

りん病, クラミジア, コンジローマ, ヘルペス, 梅毒, しらみ, その他( )

覚えていない, 病名は聞いていない

3. 妻, 恋人がいる方で, 今回それ以外の相手から性病に感染したと思われる方にお伺いいたします

今回性病になったことを妻あるいは恋人に話しますか。：はい いいえ

D. ソープランド, ヘルスなど配偶者, 恋人以外の女性から感染したと回答された方におうかがいいたします。

なぜそのような所へ行ったのですか。○印をつけて下さい。

酒の勢いで, 友人に誘われ断れずに, 客引きにうまく誘われて, 恋人や妻はいるがテクニックが良いので, 給料日後でお金に余裕があったので, 会社や友人関係でむしゃくしゃして, 理由なく衝動的に, 夫婦げんかをして, 旅行先で開放的になったので(国内旅行ですか海外旅行ですか)

Fig. 1. Questionnaire.

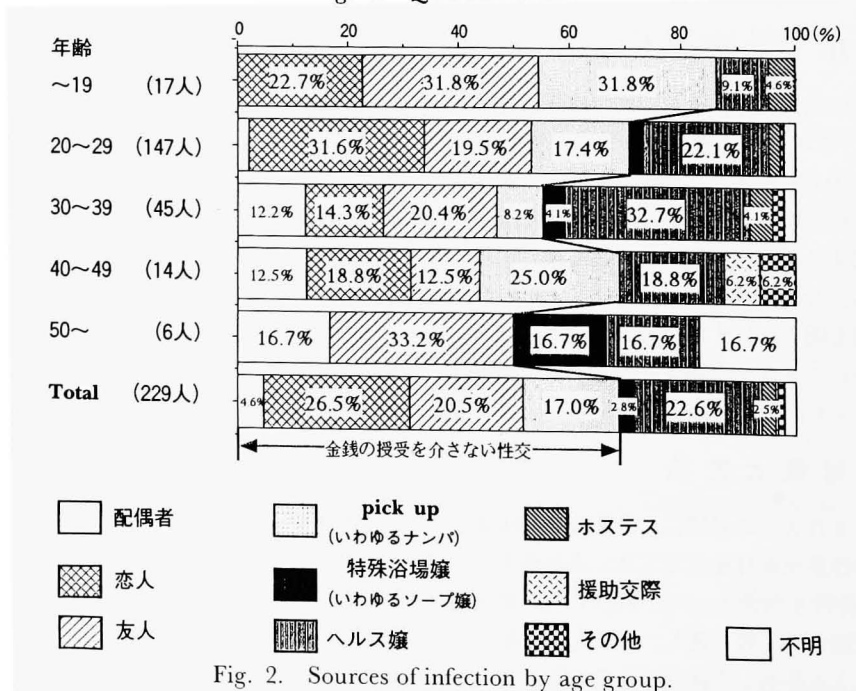


Fig. 2. Sources of infection by age group.

おもに行ういわゆるヘルス嬢によるものであった。全体では約70%が金銭の授受を伴わない相手であった。

3. 今回の症状と関係のある相手の人数  
この項目については209例から回答が得られた。今

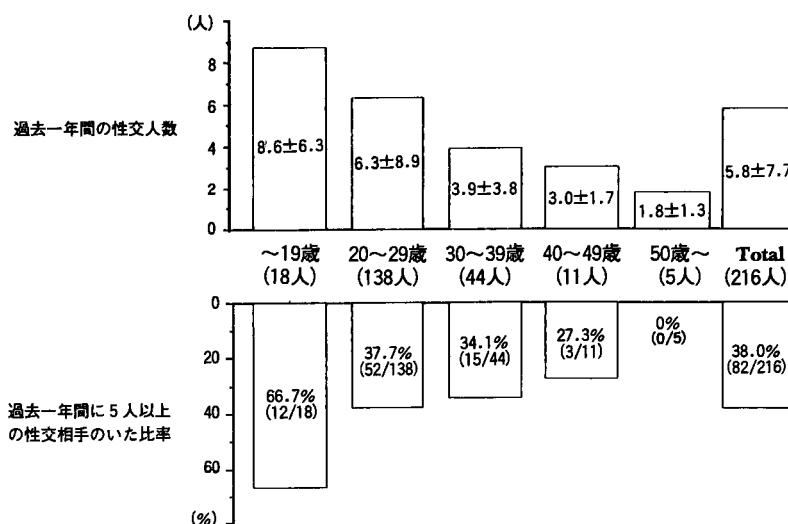


Fig. 3. Mean number of sex partners in the past year and mean percentage of STD patients with five or more different sex partners in the past year for each age group.

回受診する契機となった症状に関係があると考えられた性交相手の数は、1人：129例 (61.7%)、2人：42例 (20.1%)、3人：12例 (5.8%)、4人：4例 (1.9%)、5人以上22例 (10.5%)であった。複数の症例を80例 (38.3%)に認めた。

4. 過去1年間の性交人数および5人以上の性交相手のいる頻度 (Fig. 3)

過去1年間の性交人数については216例の回答が得られたが、平均は5.8人であった。またSTD罹患のリスク行動のひとつとされる、過去1年間に5人以上の性交相手があった頻度は全体で38.0% (82/216)であった。

5. 性交様式

性交様式については234例の回答が得られた。Oral sexのみ：63例 (26.9%)、Vaginal sexのみ：42例 (18.0%)、Oral sexとVaginal sex両方：129例 (55.1%)であった。Oral sexの頻度は80%を越え、またVaginal sexを行った症例の75.4% (129/171)でOral sexが行われていた。

6. Oral sexが性感染症の感染源となり得ることを知っている人の比率

この設問では239例の回答が得られた。10代では57.9% (11/19)、20代では61.2% (93/152)、30代では58.3% (28/48)、40代では42.9% (6/14)、50歳以上では66.7% (4/6)の症例が知識を有するという結果であった。全体では59.4% (142/239)の症例で知識を有するという結果であった。

7 性行為別のコンドーム装着率

この設問では234例の回答が得られた。Vaginal sexのみを行った42例では21.4% (9/42)の装着率に対し、Oral sexのみを行った63例ではコンドームを装

着した症例はいなかった。なおOral sex, Vaginal sexともに行った129例のうち20例でコンドームを装着していたが、そのうち16例ではOral sex時にコンドーム未装着であった。

8. コンドーム装着時期

この設問では29例の回答が得られた。最初から装着：9例、挿入時に装着：16例、射精時に装着：4例であった。

9. パートナーへのSTD罹患告知の有無

この設問では138例の回答が得られた。妻あるいは恋人など特定のパートナーがいる人を対象に、STDに罹患したことをパートナーに伝えるか否かを検討した。全体では59.4% (82/138)の告知率であった。既婚者では49.0% (25/51)と約半数の症例にとどまっており、未婚者では65.8% (48/73)であった。

10. その場かぎりの性行為を行った動機

STDに罹患する可能性が高いと考えられる性風俗産業あるいはPick up (いわゆるナンパ)での性行為など、その場かぎりの性行為を行った患者を対象にその動機を検討したが、この設問へは93例の回答が得られた。友人の誘いを断り切れずが一番多く29例であった。以下、特に理由がなく衝動的に：27例、酒の勢いで：22例、給料日後で金銭的に余裕があったので：11例などであった。

## 考 察

近年の日本では、様々な通信機器の普及や情報の氾濫などにより、性の自由化の風潮が浸透しつつある。ことに若年者では広いSexual networkを形成し、無症候感染を含めたSTDが蔓延していると考えられている。そのような中で本邦ではSTDとしてのHIV

感染例は急増傾向にあるが、近い将来従来の STD と同様に HIV が著しく拡散することが危惧されている。STD 患者集団は HIV 感染の最大の予備軍と考えられ、彼らの性行動を調査することは HIV を含めた STD 拡散の予防上重要なことと考えられる。

STD 罹患率は AIDS キャンペーンにより一時下降していたが、1995年以降再び性器クラミジア感染症と淋菌感染症を中心に増加傾向にあることが熊本を中心に全国規模で行われている調査の結果明らかになっている<sup>1)</sup>。また今回のわれわれの検討では10代の症例は少なかったが、10代、20代の若年層の感染者が急増していると報告されている。感染源については全体では約70%の症例が金銭の授受を伴わない相手であった。また症状出現までに性交渉をもった相手の数は2.8人であり、症状出現前のいわゆるピンポン感染により一般の人々に STD が拡大している可能性も十分に考えられた。さらに、ここ1年間に性交渉をもった相手の数は5.8人であり、無症候感染例も含めるとさらに感染が拡大していることが想像された。また性的パートナーが複数人いる人の感染を管理することは、STD の拡散に最も大きな影響を与える可能性があるとの報告があるが<sup>3)</sup>、今回のわれわれの調査では STD に罹患したことをパートナーに伝えると回答した比率は59.4%と高い比率ではなかった。パートナーへの通知戦略についてはいくつかの報告があるが<sup>4)</sup>。有効な方法はなかなかないようである。

感染の拡大を防ぐためにはコンドームの使用が有効であるが、今回の調査ではきわめて低い使用率であった。木原らは一般集団に比べ STD 患者群でコンドーム使用率は有意に低く、STD 患者群では STD の予防意識が希薄であると報告している<sup>2)</sup>。このような状況の中、1999年に低容量ピルが解禁されたが、男性 STD 患者の20.4%がピル使用を希望しているとの報告もあり<sup>5)</sup>、男性が女性のみを避妊を任せることでコンドーム使用率がさらに低下し STD のさらなる拡大に繋がる懸念されている。

安価な性産業の氾濫の中、Oral sex が現在の STD の感染源として重要な位置を占めているが<sup>6)</sup>、今回の調査では、Oral sex を行っていた患者の頻度は82.0%と非常に高い頻度であった。また Oral sex が STD の感染源となることを知っていた患者は約60%であったが、Oral sex の際にコンドームを使用していた症例はごくわずかであった。性感を損ねるとの理由からコンドームを使用しない症例が多いようであるが、無防備な性行為が非常に危険な行為であることの

啓蒙活動や学校教育が大切であると考えられる。特に学校教育は重要と考えられるが、現在日本では小学校中学年から正しい知識や行動選択について、発達段階に応じた指導が推進されているようであるが<sup>7)</sup>、家庭や地域との連携のもと学校教育活動全体を通じた健康教育を推進することが求められていると思われる。

## 結 語

性感染症患者の性行動に関するアンケート調査を行った。

- (1) 感染源は約70%が友人や Pick up (いわゆるナンパ) など金銭の授受を介さない相手であった。
- (2) 過去1年間の性交相手は平均で5.8人で、若年層ほど高い傾向にあった。
- (3) コンドーム装着率は12.4% : 29/234ときわめて低かった。
- (4) Oral sex の頻度は82.0% : 192/234と高率であった。

以上のことから、若年層において、広い sexual network を形成し、無防備な性交が行われていることが考えられた。

## 文 献

- 1) 熊本悦明, 塚本泰司, 西谷 巖, ほか: 日本における性感染症 (STD) 流行の実態調査—1999年度の STD センチネルサーベイランス報告—。日性感染症会誌 **11** : 72-103, 2000
- 2) 木原雅子, 熊本悦明, 大里和久: STD クリニック受診者の性行動に関する横断研究。厚生省 HIV 感染症の疫学研究班報告書, 平成11年度版 : 305-312, 2000
- 3) Oxman AD, Scott EAF, Sellors JW, et al. : Partner notification for sexually transmitted diseases : an overview of the evidence. *Can J Public Health* **85** : 127-132, 1994
- 4) Fenton KA and Peterman TA : HIV partner notification : taking a new look. *AIDS* **11** : 1535-1546, 1997
- 5) 落合賀津子, 木原雅子, 木原正博, ほか: 大学生のピルに対する認識と性行動に関する研究。日性感染症会誌 **8** : 127-135, 1997
- 6) 田中利幸, 内藤和彦, 比嘉 功, ほか: フェラチオによる男子尿道炎のサーベイランス。日性感染症会誌 **9** : 90-93, 1998
- 7) 高杉重夫: 最近の学校健康教育行政の課題について。日医師会誌 **126** : 485-488, 2001

(Received on October 29, 2001)  
(Accepted on January 31, 2002)